

氏名： 耳塚 寛明 (MIMIZUKA, Hiroaki)  
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系  
職名： 教授  
学位： 教育学修士 (1979 東京大学)  
専門分野： 教育社会学  
URL： <http://www.li.ocha.ac.jp/hss/edusci/mimizuka/>  
E-mail： [mimizuka.hiroaki@ocha.ac.jp](mailto:mimizuka.hiroaki@ocha.ac.jp)

#### ◆研究キーワード / Keywords

教育社会学/学力/教育政策/学校組織  
Sociology of education / Academic achievement / Educational policy / School organization

#### ◆主要業績

総数 (6) 件

- ・お茶の水女子大学・Benesse 教育研究開発センター共同研究『教育格差の発生・解消に関する調査研究報告書』、188 頁 (2009)
- ・耳塚寛明 (王傑中国語訳)「日本基礎教育中の学業成就制約要因分析」中国教育経済学研究会編『教育与経済』2008 年 2 期、59-65 頁 (2008)
- ・Mimizuka, Hiroaki, "Determinants of children's academic achievements in Japanese primary education", 『JELS』第 12 集、1-15 頁 (2008)
- ・耳塚寛明「格差社会と学力の行方」『児童心理』No.878、52-59 頁 (2008)

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

教育社会学。とくに教育政策、学校組織、進路選択、学力形成に関する社会学的研究。

1. 学力格差の社会的形成過程研究 「だれが学力を獲得するか」は、教授学上の焦点  
関心であるのみならず、教育選抜の帰結を左右する中核的問題である。19 年度からはじまったグローバル COE プログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」(拠点リーダー耳塚)の中で、「青少年期から成人期への移行についての追跡的研究」(JELS) を継続する。
2. 進路選択の社会学 だれが、どのように進路を選択し、選抜されるのか。とくに高校生の進路選択の社会学的分析。
3. 教育政策の社会学

Sociological Study of Education: Educational Policy, School Organization, Educational Selection, Academic Achievement.

Theme 1. Ecological Study of Student Achievement: I administered an empirical research on the relationship of students achievement, their career formation and family background.

Theme 2. Sociological Study of Student Career Formation: I analyzed changing patterns of youth transition from school to workforce.

Theme 3: Sociology of Educational Policy in Japan

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

- 学部、大学院において以下の授業を開講した。
1. 教育社会学、学校社会学の概論および特殊講義
  2. 社会調査法、教育調査法に関する講義、演習
  3. 教育社会学方法論に関する講義、演習
  4. 教職課程における教育社会学を中心とした講義

1. Introduction of Sociology of Education, Sociology of School
2. Lecture and Exercise of Social Research
3. Lecture and Seminar on the Methodology of Sociology of Education
4. Lecture on Social Foundation of Education (Teacher Training Course)

In the 2008/2009 term, major theme of seminars in the undergraduate course and in graduate course was limits and possibilities of educational policies of the new right.

## ◆研究計画

だれが学力を獲得するのか。Japan Education Longitudinal Study (JELS2003、JELS2006) を用いた分析を通じて、子どもたちの学力形成に家庭の経済と文化的環境が関わり、学力格差が生まれていることが明らかになりつつある。格差を縮小する上で、どこにいかなる資源配分が必要であるのかの分析を行い、業績主義の衣を羽織った不平等を是正する方策を模索したい。青少年期から成人期までを対象とした縦断的研究である JELS を継続し、育てたい。2007～2011 年度の間は、採択されたグローバル COE プログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」が、優先的活動機会である。

調査フィールドを受けていただける自治体との協働研究が可能となればうれしい。

## ◆メッセージ

いま日本の教育は激動期にあります。義務教育は、長い間変わらなかった制度の根幹が崩れようとし（たとえば義務教育費国庫負担制度や教員人材確保法）、「脱ゆとり路線」へと舵が切られました。行政の重点は、教育条件整備から結果の評価に基づく資源配分へとシフトしつつあります。全国一斉学力テストの導入や学校評価システムの整備はその一例です。こうした教育界を襲う変化は、子どもたちの発達に、学校の機能に、さらには社会そのものの姿に、どういう帰結をもたらすのでしょうか。とりわけ、格差が再生産される社会に日本は変わっていくのでしょうか。教育と社会の現在に危機感を持ち、エビデンス・ベースにアプローチしようとする皆さんを歓迎します。



2008年3月 韓国高麗大学における講義